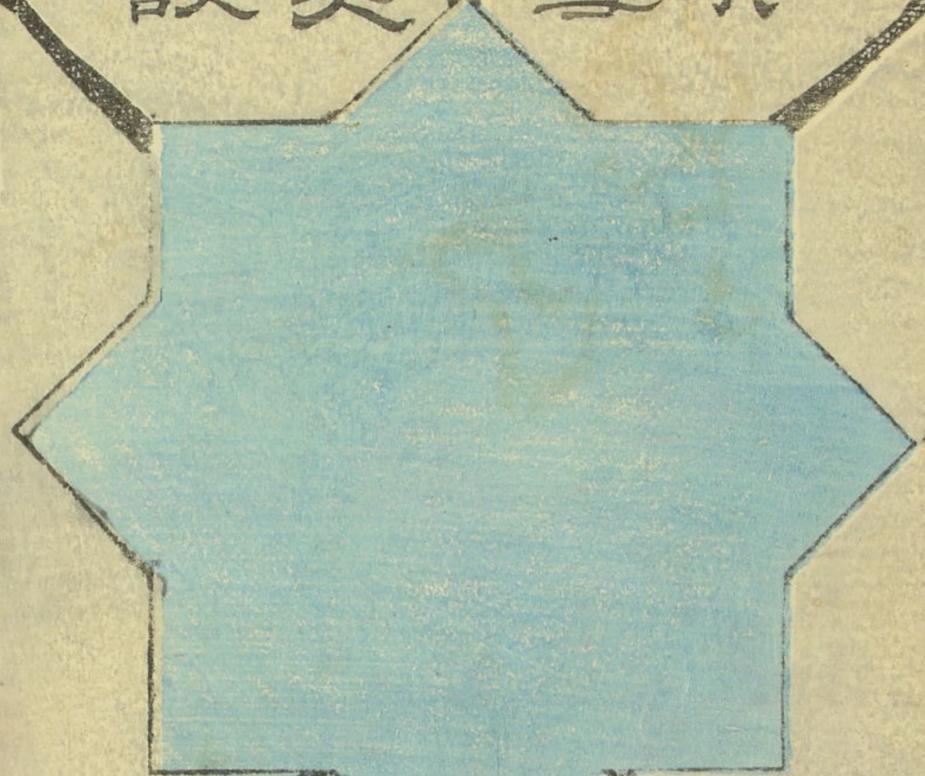


門へ13
3740
13

談美雪瓶



時代鏡

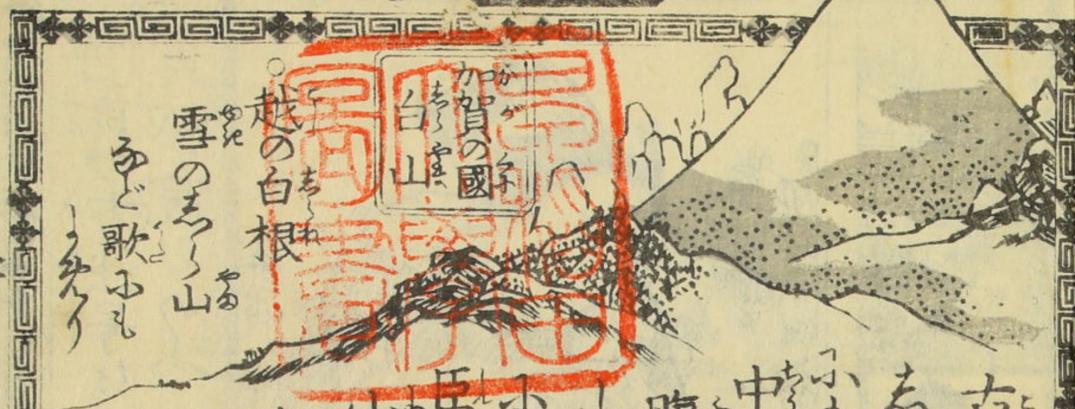
七篇上冊

雪瓶

因貞画

若林堂印

六 一 六



越の白根
雪のまじり山
歌ふも
寺

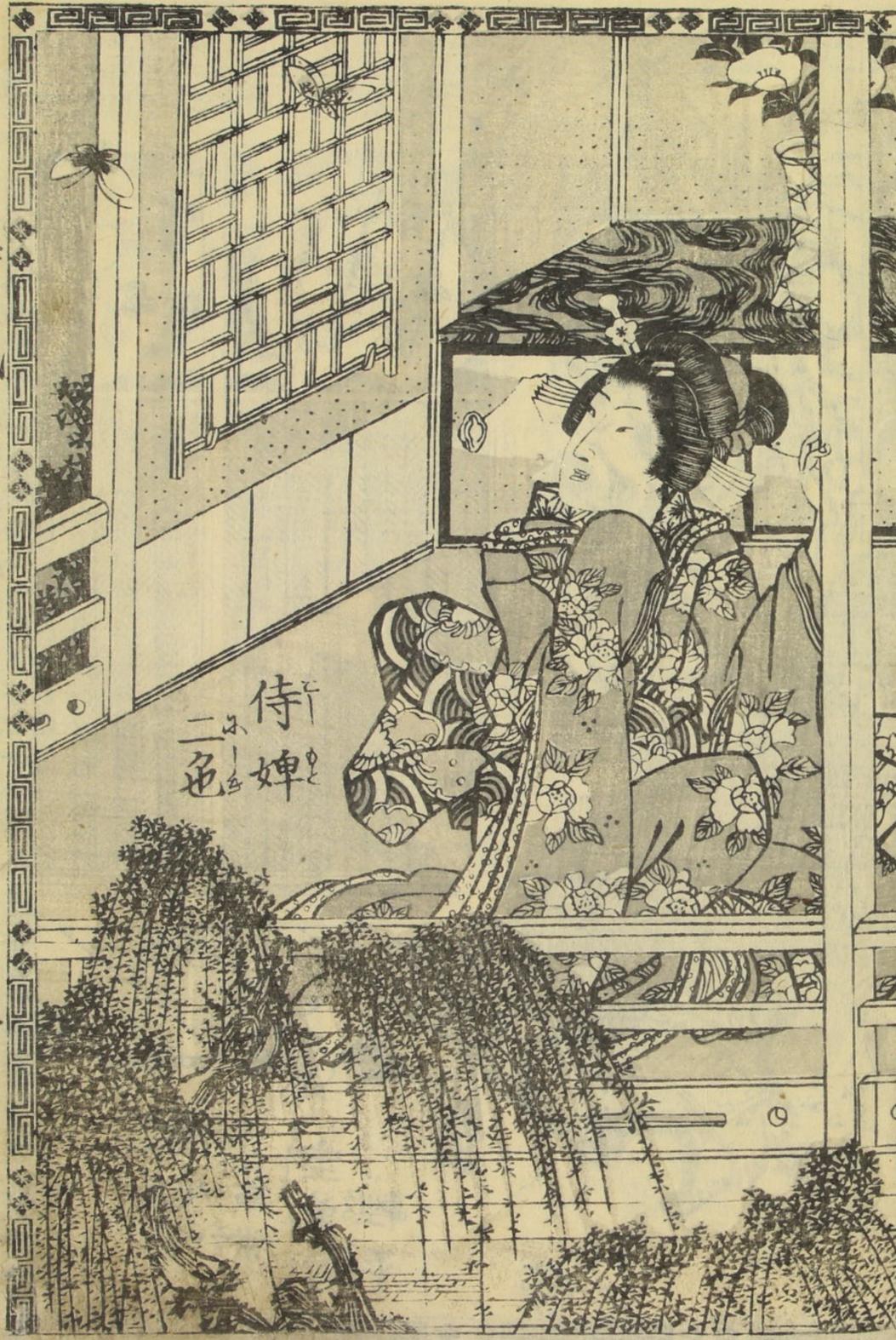
寺
弋
二

古今集小躬恒が歌こそ余所小の戀や渡らん
まじり山のまじり見るともいづれ我身へとほしき詠歌
ふのまじりまじり白山雪若友冬とつ小名氏仮小設つ這巻
中の二貫目こそ奸賊藤浪田縁之丞小照對さすは
腹稿ありしも六篇まで左小右と餘談小緯の繁く
しつとつと那身ふかよふまじりまじり这篇より友冬が身
小換へ命をいづれまじり奸賊鋤き邪と正し了小柱石の
臣とあるの其一端と編出せ北雪美談と表題せし
小意小漸く愜つんとまじりまじりも不勝ハ地利をも
知らぬ北國吐しゆれ見るともいづれ我身へ白根の雪
を墨小して昏らまじりつ措夏まじりまじり

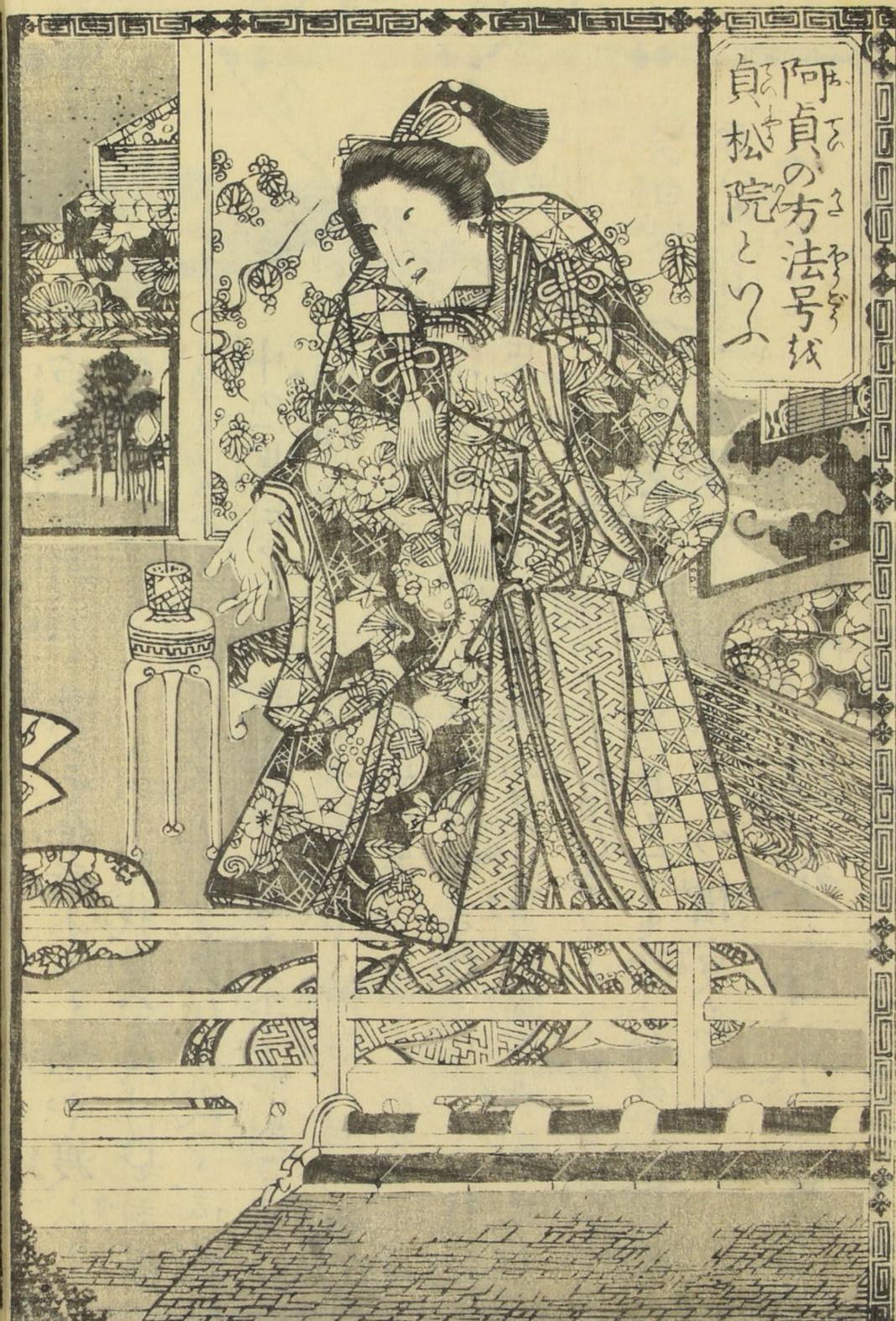
安政三丙辰新刺
文久四甲子再板

爲永春水誌

寺
代



新
色 侍
婢



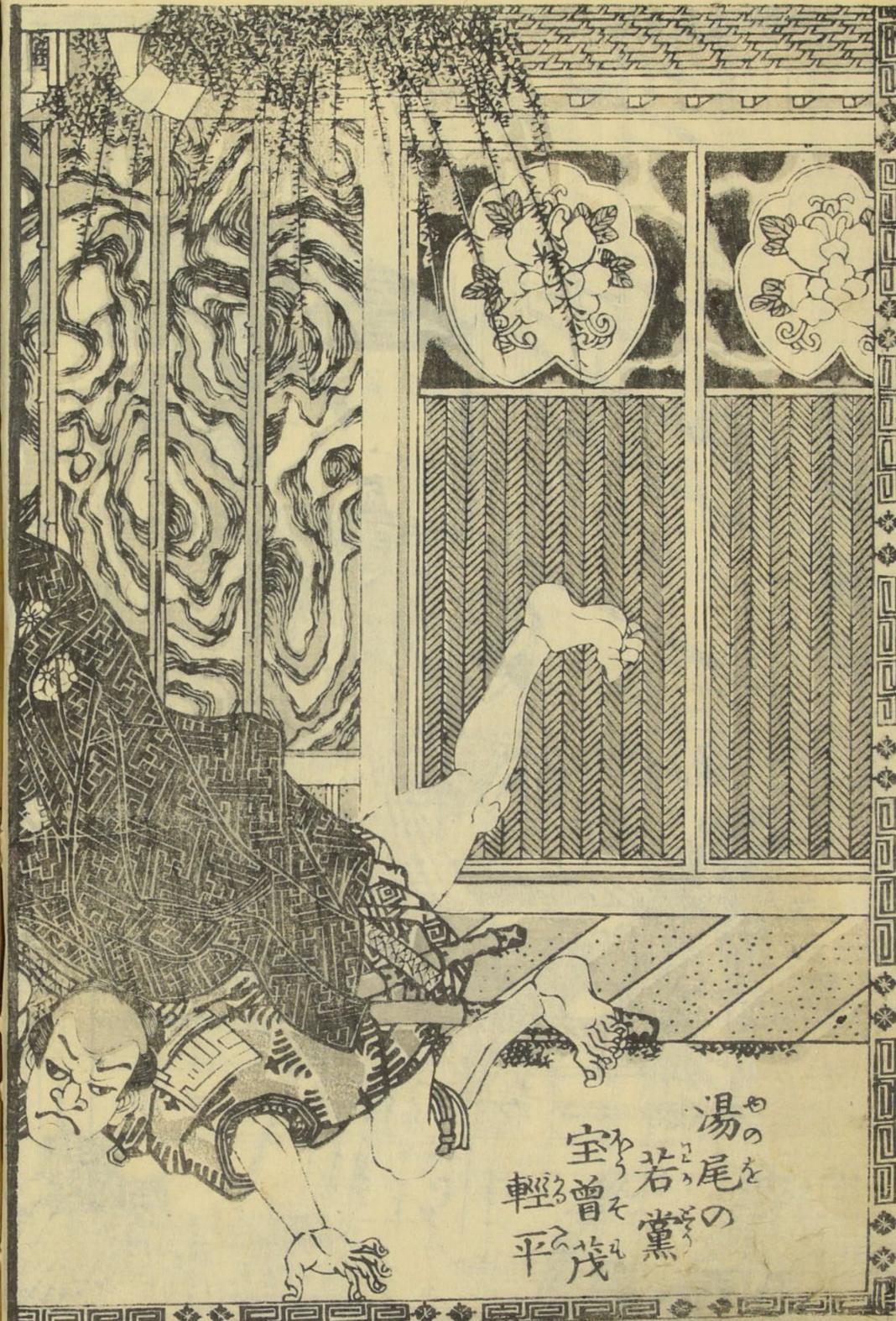
阿
貞
松
院
と
り
の
方
法
号
哉

日
个



湯尾の若黨
 紫鴨輕市

白山
 雪若
 友冬

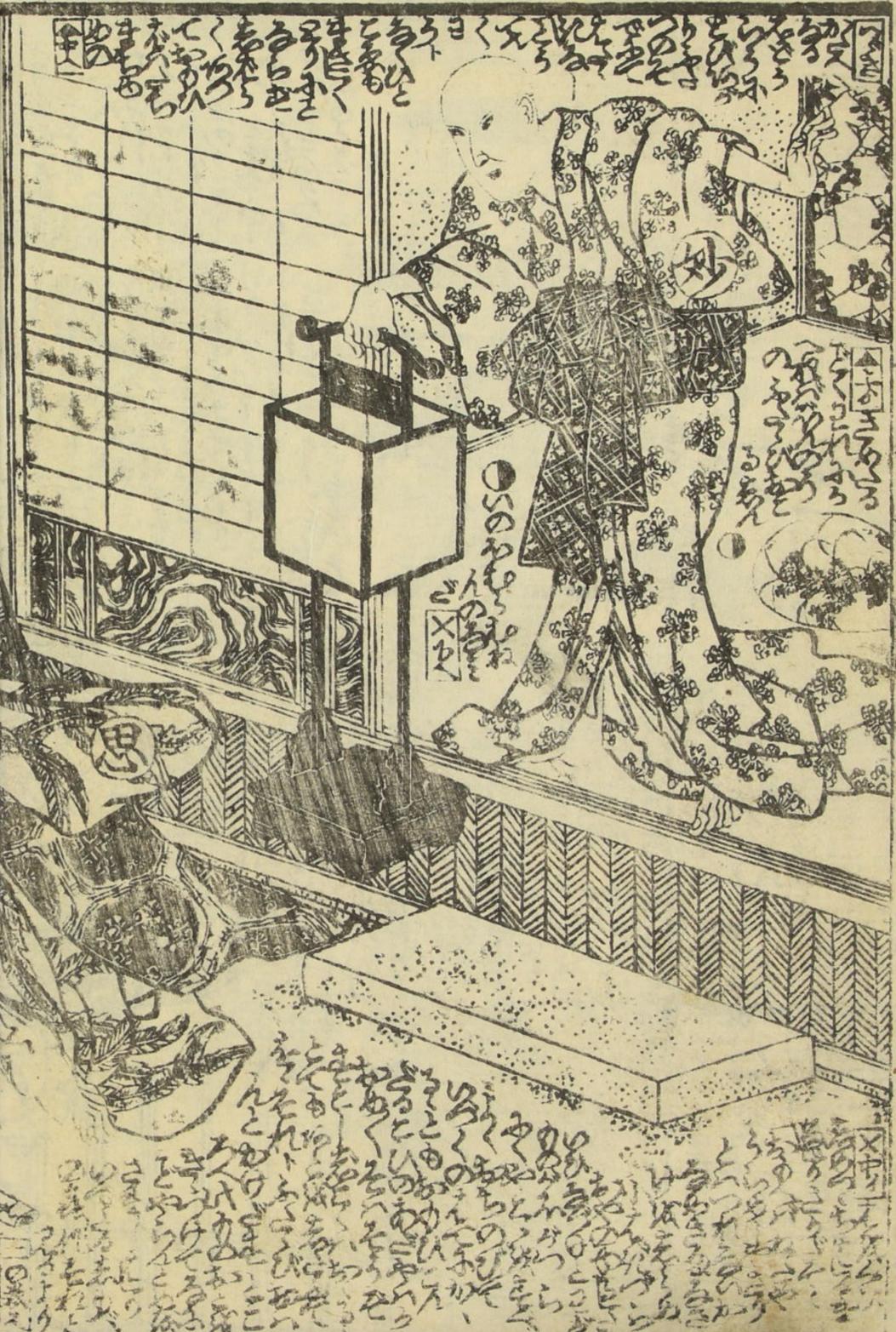


湯尾の
 若黨
 宝曾
 輕平





寺



時代七





目次

